

# ひめだ高松ニュース

日本共産党 和歌山市公議員

No. 1301

20.7.14

## 今週中にも7月臨時市議会

7月13日(月)～15日(水)の日程で、和歌山市議会臨時市議会を開催する予定です。臨時市議会には、7月臨時市議会開催費の予算化が議題とされています。また、7月臨時市議会開催費の予算化が議題とされています。

## 7月臨時市議会議案の概要

臨時市議会に提案された議案の1つは、一般会計補正予算。23億7,000万円の増額補正で、国庫支出金の財政調整基金繰入金2億1,427万3,000円が主な財源です。議案の2つめは、

児童扶養手当受給者に対する第一子5万円、第二子から一人2万円支給する子育て支援臨時特別給付金事業に6億4,270万円、5～7月の1か月で最大20万円まで減額する子育て支援臨時特別給付金事業に1億3,000万円、不安を抱える妊婦の分娩前PCR検査に45～4万円、臨時市議会の感染対策として避難所用テント等の購入に43～4万円、障害者作業所の売上が前年同月比で減少、また前年比で3か月続けると

削減となった場合に必要経費の補助に3700万円、各小学校の給食調理場の熱中症対策のスポットクーラーの設置、食中毒対策としての保冷庫の設置に230万円

1万3000円、市外在住の専門学校を含む学生に和歌山の特産品等を送料に2000万円、乳幼児健康診査を集団健診から個別健診へ切り替へ1848万3000円など

## 今週のフツーの人々

(その247)

新型コロナウイルス感染症が止まりません。東京は連日2000人を超え、感染者が出ており、和歌山でもこの1週間、感染者とその家族の感染が発表されています。感染を避けるための3密(密閉・密集・密接)の回避や密接を避けるためのソーシャルディスタンス、社会的距離の確保も耳慣れしてきました。厚労省は23日、感染防止の

重要です。中国の小学生在が左右に長い棒を出した帽子をかぶり、東京の小学生在が雨も降らないのにカサをさして、他人との距離を取る様子がニュースになりました。ブラジルのサンバや宝塚歌劇の羽飾りなど、ソーシャルディスタンスの生活用具として日本の服装に取り入れられたなら、そのうち国から配られることがあがるのではな

## フツーの人々

(1084)



ひめだ高松

# 「カジノはあかん」宣伝行動



7月12日(日)午前10時から塩屋の交差点でカジノはあかん宣伝行動をいたしました。この日、県・市の大運動実行委員会とカジノ問題を考える和歌山ネットワークが呼びかけた「カジノはあかん」和歌山市内の80か所いっせいで宣伝行動に応じたものです。

塩屋と高松のメンバーは、カジノ反対ネットワークが

作った「カジノはあかん」のポスターを持って通行する人や車にアピールのスタンディング。写真は開始早々に集ったもので、参加者は総勢8名になりました。

コロナ禍で密を避けるよう言われるのに密を作り出すカジノ、コロナ禍を考慮せず計画を進める県と市、人の不幸で成り立つギャンブルにやるまじぶんに反対しよう、マイクでも呼びかけました。

## 「あかん」は日本共産党です

F35を100機購入  
米国防省は9日(現地時間)F35ステルス戦闘機100機と関連機器の日本への売却を承認し議会に通知しました。売却総額は推定約230億ドル

ル(約2兆4800億円)。米国の武器輸出制度であるFMS(有償軍事援助)に基づき日本への武器売却額としては過去最大で、米国の売却実績としても2010年サウジアラビアにF15戦闘機84機など総額294億ドル(約3兆1500億円)に相当を承認したのに次ぐ総額です。

売却されるのは空軍仕様のF35A63機、短距離離陸・垂直離陸が可能な海兵隊仕様のF35B42機と予備F35C10機の関連装備品など。日本政府はこれまで、機体価格を1機100億円と説明していましたが、関連機器を含めると1機あたり230億ドルに膨張します。

## 潮流

(20.7.9日刊) 古来日本の文化とは川の文化でもありました。川の水を治める。人や物を運ぶ。個々の川には、その土地の歴史が刻みつけられています。この国の川は急流で短い。降った雨は洪水流となって一気に海へ突っ走り、あとはたちまち乾いてしまいます。その暴れ川の氾濫原に土地判用をもとめてきたのが日本人であった。日本の文化史を著した富山和孝さんは、昔から水害は宿命的で治水が最大の課題だったと述べています。しかし、魔物のように荒れ狂い、各地で人びとや野をのみ込んでいく弊は、もはや治めることができないほど激しい。数十年に一度、経験したことのない豪雨がくし返され

る現実。川との付き合い方を考え変えてしまいます。北極圏に位置するシベリア

の町で40度近い気温が記録されるなど、地球全体が警戒を鳴らす時代。温暖化を抑え、異常なありさまを元に戻す責任もまた、人類に問われています。▼「どんな訓練なのか」。一夜にして生活のすべてを失い、途方に暮れる被災者がもたらしました。コロナ禍に水害。列島の至るところで、命とくらしを脅かす危機がもたらすとき、政治が役割を果たすとき、ところが、その政府は自利ばかりを追い、犠牲のみみれ、人心を社会を恐ませています。▼文化とは何でしょうか。その富山さんは呼びかけます。「先祖たちが培ってきたもののりを現任の私たちが取り戻せるかどうか。いま自然からも歴史からも試されて、どのように生きていかなければならない」

**赤旗**  
日刊 349号  
日曜版 9月30日